

自己紹介

中遠地区 高梨和司

磐田市の『たかなし珠算教室』の高梨和司です。旧磐田郡豊田町に教室を構え、はや三周年を迎えようとしています。

多すぎもせず、少なすぎもせず、いまの自分たちの身の丈に合った人数の生徒たちをかかえながら、楽しく、厳しく、時にはイライラしながら（これが一番多いかも）、指導にあたっております。

思えば七年前、自宅を改築する際に、教室を始めるかどうかというはつきりとした決断もありません、十八畳ほどの広い（教室としては狭い？）部屋を作っておいたのが正解でした。

二〇〇八年五月に結婚して以来、妻にはかねがね『教室を始めたい』とお願ひしていたのですが、なかなか重い腰を上げてもらえない。そんな妻が突然教室を始めると言い出したのが二〇一〇年一月。なんでも、娘と通っていたベビーマッサージの先生に『思い切っちゃってみたらどう？』と言われたのがきっかけとか。旦那の願ひは全く聞いてもらえなかったのは微妙ですが、大チャンスの到来です。妻の気が変わらないうちに。善は急げです。倉庫と化した部屋を一気に片

付け、カーペット、ホワイトボード、机、教材、そろばん、通学カバンを調達し、また近隣の皆様の口コミで生徒も集めていただき、準備期間二ヶ月弱で無事開塾にこぎつけることができました。特に妻の背中を押してくれたベビマの先生、大変感謝しています。

さて、私は子供の頃、本当にそろばんに明け暮れた毎日を過ごしていました。小学二年生の三月にそろばんを始めたのですが、四年生の頃からは毎日三〜四時間の練習。これを高校三年生（なんと受験期間中も！）まで続けました。益暮れ正月なし。今考えても想像もできないほどのハードな少年時代でした。

高校卒業後、大学時代は大阪で四年間を過ごしました。本当は京都に行きたかったのですが、センター試験で国社の点数が悪く、急遽大阪にすることに。国語は『ヤメ』といわれてから二つほどマークを塗り替え、なんと一挙に二十点を失いました。『ヤメ』と言われたら筆記用具を置くように、と散々指導されてきたはずなのに。しかし、この選択変更がなければ、今のようにはろばんと関わる私はなかったと断言できます。

当時のそろばん王国といえは京都・大阪。その大阪で自分の実力を試せる、またとない機会を得たのです。加えて、非常にオープンな風土を持った大阪では、年間を通じて実に多くの競技大会があり、エントリーさえすればほぼ全ての大会に参加できる。それまでは年に一回の国民珠算競技大会（日珠連主催）のために全ての時間を費やしてきたといっても過言ではない私にとって、大阪でのそろばんを取り巻く環境はあまりにも魅力的であり、私が選手としてのめり込んでいった時期もこの頃でした。多くの選手仲間ができて、多くの先生方にもお世話になり始め、いよいよそろばんがライフワークとして充実してきたのが、大阪での四年間だったと思います。

その後、当時の松下通信工業（現パナソニック）の子会社に入社し、松下電器珠算部からのお誘いを受け入部。新入社員の間、横浜で修行を積んだのちに浜松に移り、現在に至っております。

会社では技術者として無線通信機器（携帯電話など）の設計・開発を行うかたわら、週末は教室での指導、練習プリントの作成、お手伝いさせていだいての競技大会の準備、競技大会への出場など、休む間もなくそろばんと向き合い、頑張っております。

これまで、全珠連には全日本珠算選手権大会と通信大会の選手としてのお世話になっていました。これまでも色々な先生方のお世話になっていて、この認識はありましたが、全珠連に加盟

させていただき、全珠連があらためて多くの先生方のご尽力によって成り立っている組織であるということ、肌身をもって感じております。また、静岡で行われた研究会に参加させていただいた折り、多くの先生方が一生懸命に学ばれる姿勢を拝見し、全珠連はまだまだ進化していける団体であると強く確信いたしました。

小学生時代からのこれまで三十年余、自らは選手として多くの技術や知識を培い、また全国の選手や先生方とのつながりを作ることができました。これらの自らの財産を大切に、また生かしていくことで、静岡県珠算協会、全珠連静岡県支部の発展に、微力ではありますが、貢献していきたいと考えております。

小中学生の頃、あまりにもそろばんの練習ばかりしていたためか『そろばんバカ』と言われたこともありましたが、しかし、教室での指導を始め、また全珠連の会員となった今、まさに本当の意味での『そろばんバカ』の真価が問われるときが来たのではないかと感じています。

至らぬところも多々あるかと思いますが、そのようなときには厳しくご指導いただけましたら、ありがたいと考えております。また、お酒を飲みに行くのも大好きです。珠算談義に花を咲かせられたらと思いますので、こちらもぜひともお願いいたします。

それでは、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。